

航空券連帯税の可能性：133億円の税収

(エコノミー席: ¥100、ビジネス席: ¥500、ファースト席: ¥1000)

SDGs達成のための新しい資金を

考える有識者懇談会

◎2本立て: 税制、民間資金

【税制】航空券連帯税、為替取引税

【航空券連帯税の種類】

◎前提: 国際観光旅客税(出国税)が実施されている状況の中でのあり方

①観光税では席(クラス)別になっていないので、ビジネス・ファースト席を増額

②入国税(米国では国際通行税として出入国につき往復¥4,040課税)

③観光税も連帯税も徴収(韓国: 観光税として¥1,000、連帯税として¥100)

【観光税上乗せ連帯税の場合: 税額相当低く】

◎税額: エコノミー席: ¥100、ビジネス席: ¥500、

ファースト席: ¥1000 <⇒衛藤会長提案>

◎2018年税収見込み:

・利用者: 訪日3,119万人、出国1,895万人

(エコノミー65%、ビジネス30%、ファースト5%※)

・税収: 132.9億円 ※ボーイング777-200ERを参考

【税収の使途: 航空旅行の負の影響】

◎新旧感染症拡大のリスク⇒感染症対策へ

◎CO2大量排出のリスク⇒温暖化対策へ

(CO2排出への課税: スウェーデンなど)



作成: 田中徹二・グローバル連帯税フォーラム